

SUGINAMI

# 9きなみ

歩きながら、元氣と文化が、すぎなみ生まれる街。

杉並区コールセンター

☎#8800または☎3372-8800  
午前7時～午後11時(粗大ごみ受付 午前8時～午後7時)

## 新春対談



山田区長  
富本区議会議員  
弘兼 憲史さん



ジェイコム東京2(デジタル11)チャンネル  
1月1日(祝)～9日(出)  
11時・19時・23時  
(3日(日)・6日(水)・9日(出)は15時から放映)

「区議会だより」が折り込まれています

発行/杉並区  
編集/広報課  
〒166-8570杉並区阿佐谷南1-15-1

区の代表電話 ☎3312-2111  
FAX3312-9911 (広報課直通)  
http://www.city.suginami.tokyo.jp/

# あけましておめでとうございます

## 郷土博物館の新年行事～新春吉例「大宮前囃子」



大宮前囃子は、宮前地域に伝わる民俗芸能で、区の登録無形民俗文化財です。舞を披露するのは、大宮前郷土芸能保存会の皆さんです。

【日時】 1月5日(火)午後2時  
【観覧料】 100円。中学生以下は無料  
【申し込み】 当日、直接会場へ  
【場所・問い合わせ】  
郷土博物館(大宮1-20-8 ☎3317-0841)

### ◇お正月行事 子ども博物館教室◇

### 「まゆ玉を作ろう」

小正月の1月15日に、まゆや農作物の豊作を祈る「まゆ玉飾り」とよばれる行事があります。(右下写真)

郷土博物館の古民家のかまどで、紅白のだんごを蒸して木の枝に刺し、「まゆ玉飾り」を作ります。

☎1月11日(祝)午前10時～正午 小学3～6年生 20名(申込順) 1月5日午前9時から電話で、郷土博物館へ☎1月11日(祝)午後～17日(日)に「まゆ玉飾り」を展示しています



## 志を立て、

## 明日を拓く年に

杉並区長

山田 宏



あけましておめでとうございます。

昨年は区政に対しても、いろいろご理解ご協力をいただきありがとうございます。本年もどうかよろしくお願いいたします。

さて、昨年は「己丑(つちのとうし)」の年で、これまでの乱れを正す「紀律の年」らしく、政権交代や新型インフルエンザの流行など大変革の兆しを感じる一年でした。

そんななか杉並区は、年初に「遠きを見すえ、今を固める」という経営目標を定め、区民生活の安全安心に十分目配りをしつつも、目の前のことだけにとらわれず「減税自治体構想」の検討など、将来の杉並区のビジョンも意識しながら区政に取り組み、おおむね順調に目標を達成できたと考えています。

今年には「庚寅(かのえとら)」の年。「庚」は更新の「更」、「寅」は改まるという意味をもち、「さらに改まる」年と言われます。

六〇年前の庚寅は昭和25年(一九五〇年)で、朝鮮戦争が勃発し、米ソ冷戦は平成3年(一九九一年)まで続きました。その前の庚寅は明治23年(一八九〇年)で、明治憲法のもとで最初の衆議院選挙が行われ、日本の議会制度がスタートしました。

このような大変革の時代は、区は身近な自治体として、4月時点での待機児ゼロをめざした保育施設の増

設や新型インフルエンザ対策の強化など、まずはしっかり福祉、医療や介護などの安全安心のサービスを提供していくことが大切と考えます。また学校の建て替え、高円寺、荻窪、永福町などの駅や駅周辺の整備、桃井の防災公園などの公園整備、そして善福寺川の治水対策としての調節池など災害対策も着実に進めます。

景気悪化とともに国や都では国債や都債などの借金依存が進んでいますが、杉並区ではそれらの財源として区債には頼らず、これまでの「杉並改革」の成果で積み立てた基金を活用し、区民サービスの向上に努め、二年後の区債残高ゼロに向かって一層の行財政改革に取り組んでいきます。

大変革の時代とは、苦しい局面もありますが、またそれぞれの志を実現しやすいときでもあると思います。順調なときは「明日も何とかなるだろう」と、将来を考えないものだからです。

その意味で、今年には「志を立て、明日を拓く」一年にしていきます。将来の杉並区の大発展のために、公約で掲げた「減税自治体構想」の実現、「教育憲章」の制定、そして杉並区独自の救命救急医療体制の整備に、不退転の決意で取り組みます。皆さまにとりまして、今年がよい一年となりますようにお祈りいたします。

### 治して使うことの大切さを伝えたい

安井昌徳さん、長ひろしさん：杉並おもちゃドクターズ

「おもちゃで遊ぶ時期は限られています。だからこそ修理して、使えるものを次世代につなげてほしい。」

杉並おもちゃドクターズの創設者の一人である安井さんはこう話す。

動かなくなった音が出なくなったおもちゃを修理する『おもちゃの病院』を始めて、すでに16年が経った。おもちゃを持ってきた子どもたちは皆、心配そうに預けたおもちゃを見つめる。「おじちゃんじゃ治せないよ!」と言ってその場で泣き出してしまおう子どももいた。それでも、そんな声を力に変えて「なんとかして治してやる!」とおもちゃに向き合ってきた16年だった。

「壊れたからといって捨てるのではなく、治して使うことの大切さを、私たち大人が子どもたちに伝えていきたい。」

80歳を超えても、まだまだ安井さんの情熱は衰えない。

長さんも、安井さんと一緒に16年間『おも



▲安井さん(後列左から2番目)、長さん(同1番目)と杉並おもちゃドクターズの皆さん

ちやの病院」を続けている一人だ。大切にしていた人形が壊れてしまい、メーカーに修理を依頼したところ、新品と交換されて戻ってきた。それを見た子どもが「あれ?わたしのあの子はどこ?」心に響く一言だった。「汚れだって思い出の一つ。治せるものなら何とかして治したい。」

おもちゃの修理を始めたきっかけを長さんに尋ねるとそんな逸話が返ってきた。「壊れてしまった部品と同じものはなかなかない。でも、そこを工夫して修理していくのがおもしろみの一つ。」

長さんはそう言って微笑んだ。

#### 【おもちゃ病院の開院日】

- 井草地域区民センター
- …第2・4土曜日午後1時30分～3時30分
- リサイクルひろは高井戸
- …第3日曜日午後1時～4時
- すぎなみ環境情報館
- …偶数月の第1土曜日午後1時～4時 ほか



井草地域



考え、強度を上げます

### 人との繋がりが修理を支える

芦原博美さん：時計修理職

さび・油切れ・部品の破損…電池を取り換えても動かない原因はさまざま。「これ、まだ動きますか?」半信半疑で持ち込まれた時計が、芦原さんの手によってふたたび時を刻み始める。

「『あっ動いた!』と、お客様の表情が変わる瞬間は何とも言えません。」

時計の修理はとても細かい作業。部品は、わずかな風でも飛んでしまうため、息を止めて作業する。一つ一つが真剣勝負。

そんな芦原さんのもとには、引き出しで眠っていた腕時計から明治時代に作られた時計まで、さまざまな時計が持ち込まれてくる。「古くても、少しでも動けば、ほとんど直すことができます。」



▲部品を傷つけないよう細心の注意を払います

★プロが教える「時計を長持ちさせるコツ」  
時計は精密機器なので、やはり水に弱い。冬場に寒いところから暖かいところに入ると眼鏡が曇るように、時計の中でも空気が水に変わり、それが原因となって部品が錆びてしまうことがあります。



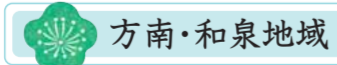
▲芦原さん(左)とご家族の皆さん

専門の知識・技術と合わせて、人との繋がりが修理を支えている。

現在は水晶(クォーツ)を使用した時計が主流だ。こうした時計は、誤差が非常に少ない反面、修理はメーカーしかできないものもある。そのため、客と職人、職人同士の繋がりが減りつつある。

「機械式時計の方が50年100年と長くもちます。数秒の誤差で人生そう変わらないでしょうし、心に余裕を持って生きるのもいいのではないですか。」

芦原さんが直してきた時計たちは、今もどこかで時を刻み続けている。



方南・和泉地域

また、3～5年で潤滑油が切れてしまうのですが、油が切れているのにもかかわらず使い続けると、部品が摩耗し変形してしまいます。動かなくなってから修理をするのではなく、ちゃんと動いているときからメンテナンスを行ってあげることが長持ちさせるコツです。

### 使う人の立場に立ち上げる

佐山道治さん：家具職

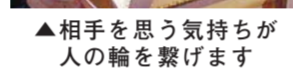
「椅子は何も話しません。でも、お預かりした椅子を、一脚一脚、一生懸命に修理をして納品すると、そのお客さまが別のお客さまを紹介してくださり、いつの間にか人の輪が広がっていきます。」

佐山さんのもとには、座面の張り替えなど、修理の依頼が次々に舞い込んでくる。

長年使った椅子は体になじんでいるもの。使い続けたいというお客さまも多い。どんなに古くても、部品がなくなっても、『自分しかなかった仕事』と取り組んでいる。

「お客さまと何度も話し合いながら、お客さまの立場に立ち上がるように修理して上げていきます。」

今まで手がけてきた椅子は、形から座面の生地まで一つ一つよく覚えている。



▲相手を思う気持ちが人の輪を繋ぎます



▲佐山さん(右)と製作所の皆さん

「同じ素材を使って直しても、『座り心地』は一人一人異なります。」

『座り心地』という感覚は目に見えない。しかし、この感覚が椅子の質を左右する。

「技術は伝えていくことができますが、椅子の質を決める最後の『感覚』の部分は教えても伝わるものではありません。何度も納品してお客さまに育ててもらうものです。」

納品したときのお客さまの笑顔が、製作所の皆さんの何よりの原動力なのである。



高円寺地域

★50年の歴史「印象に残っているお仕事」  
◇1日に17時間も座って仕事をする方から「疲れない椅子」を作してほしいと頼まれました。座面にも背中にもスプリングを入れて、洋服のように「仮縫い」した状態で1カ月ほど使ってもらってから納品しました。とてもご満足くださって、2脚目の注文までいただきました。

◇椅子がなくては生活ができない、重い障害のある方の椅子を作りました。何度も話し合い、私たちが「これで大丈夫」と納品しても、生活に密着して使うその方には不具合が出てしまいました。試行錯誤を繰り返して、無事に仕上げることができたときは、ほっとしました。本当に気に入ってくださり、お礼状までいただきました。

### 持ち主と共に「洋服」も成長していく

岩井清さん：洋服仕立職

ズボンのウエストを10cm大きくする。そんな難題でも、岩井さんが仕立てたスーツは解決できる。縫製のときに、これから着る方の10年20年先を考えて、さまざまな場面に対応できるように、あらかじめ縫い代を多めにとっておくからだ。

「着る方の成長に合わせて、洋服だって一緒に成長していける。洋服だって生きている。大切に使うってほしい。」

ご両親も『仕立職』だった岩井さんは、中学生のころから縫製の仕事を手伝っていた。戦後間もない時代。古くなった洋服でも、1度糸を全部ほどき、裏返しにして、また着ていた。

「少しくらいの傷みや流行によって、まだまだ着ることができる洋服を、しまっておくだけと捨ててしまうのではもったいない。」

『また擦れを直してほしい』『ロングコートをショート丈に詰めて』『母のワンピースを今風に仕立て直して』。岩井さんのお店には



▲修繕には共布が活躍しています。大事に取っていただきます



▲岩井さんと作業場の風景

客足が絶えない。親子4代にわたる常連のお客さんもいる。

「どんな要望にも、できる限りの技術で応えたい。」

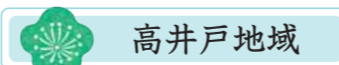
修繕や仕立て直しのためには、その洋服が作り上げられた行程を逆にたどり、糸をほどいていく。

「洋服を作り上げていく行程を知っているからできること。その場しのぎの修理では、無理な力がかかりやすく壊れてしまう。見た目ほど簡単には済まない。」

そんな言葉からは、自信と、使う方への配慮が伝わってくる。

「私が修繕をすることで、大切にしている洋服を、いつまでも長く使っていただけるお手伝いができれば。」

一着また一着と縫い上げ、岩井さんのお店は今年で52年目を迎える。



高井戸地域

◇自分に合う一本を見つけるお手伝い  
「たくさんの種類の中から自分に合う一本を見つけ、いつまでも長く使っていただければいいんですけどね。」  
そう言うと、寒河江さんは一本の折り畳み傘を広げた。折り畳み傘は「携帯に便利ながら分けても小さい」という印象があるが、広げたその傘は二回りは大きかった。  
「骨組みが三つ折り、しかも内側に折られているから、小さく畳めて大きく広がるんだ。こんな商品があること知らないでしょ。」  
店内には五〇本以上の傘が並ぶ。寒河江さんは、その一本一本の特徴を把握している。重さ・強度・生地の種類。自分で納得のいかない商品は置かない。  
「ある傘の気に入った生地を別の傘に張り替えることだって可能です。たくさん傘の選択肢の中から自分に合う一本に



▲修理を覚えてから今年で40年になります

「傘には家電のような保証はない。仕入れは『自分の手に負える傘かどうか』で判断し、修理まで責任を持つ。」  
「傘に対する知識がなければ専門店での存在価値がなくなり

「形見の傘を直してほしい。」と頼まれたことがありまして。お客さまにとって、この傘は最初から大切なものだったわけじゃないのですが、大切な人が愛着を持っていたものだから、直して自分も使いたいという気持ちで、修理の基

「形見の傘を直してほしい。」と頼まれたことがありまして。お客さまにとって、この傘は最初から大切なものだったわけじゃないのですが、大切な人が愛着を持っていたものだから、直して自分も使いたいという気持ちで、修理の基



阿佐谷地域

### 思い出も大切に！ 写真を修復してみよう



修復前



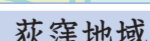
修復後

▲昭和40年代の写真。子どものころの兄弟仲良く写っている貴重なものだったので修復に出されたそうです

阿部竜太さん：写真技師

色あせてしまった写真。持ち主の記憶をたどり、1カ所1カ所その色を復元していく。「写真として形に残っていればこそ、修復することができるのです。」

最近では電子データが主流。場所をとらずに保存できるが、形として残らず、一瞬にしてすべてが消えてしまうこともある。「電子データと写真。それぞれの良さを知っていただき、思い出を残していただければと思います。」



荻窪地域

### 新年号・特集 ものを大切に 心を育てよう



「壊れても気兼ねなく捨てられるものを買う」「すぐ壊すから間に合わせのものを使う」そんな声を聞きます。でも、壊れてしまおうからこその、修理していつまでも使えるものを選んでほしい。寒河江真潮さん・傘職

### 壊れてしまおうからいっそ修理できるものを

「壊れても気兼ねなく捨てられるものを買う」「すぐ壊すから間に合わせのものを使う」そんな声を聞きます。でも、壊れてしまおうからこその、修理していつまでも使えるものを選んでほしい。寒河江真潮さん・傘職



# すぎなみの故きを温ねて新しきを知る

すぎなみ学

検索

http://www.suginamigaku.org

杉並のこれまでを振り返り、先人の行いを学ぶと、明日を拓く新しい思いがわき起こってきます。ウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」では、区民ライターさんが発掘した、杉並ゆかりの歴史を紹介しています。また、区内神社のお正月行事も紹介していますので、ぜひ一度ご覧ください。あなたの知らなかった杉並の魅力が見つかるかもしれません。

## 中央線のはじまり

杉並を東西に走るJR中央線は、明治の昔『甲武鉄道』という「私鉄」で産声を上げました。

その当時は、馬車が主な輸送機関で、明治2年(1869年)に日本橋から新宿・中野・杉並の青梅街道を通り、田無まで走った馬車が営業馬車の最初といわれています。

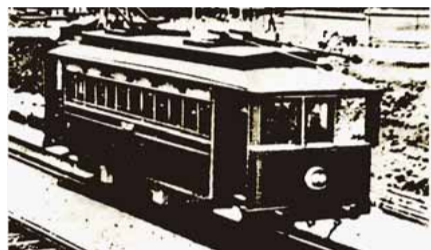
その後、東京と多摩地方などを結ぶ新たな輸送機関である鉄道が求められ、甲武鉄道が誕生したのです。

甲武鉄道開業時の駅は、新宿・中

野・境(現在の武蔵境)・国分寺・立川の5駅だけでした。

中野と境駅の間は、他に比べて駅と駅の間が大きく離れていたため、開業から2年半後、杉並区域で最初の駅(当時は「停車場」、荻窪駅が誕生したのです。

(写真:明治37年の甲武鉄道)



明治22年(1889年)新町村制の制定によって、和田堀内村・杉並村・井荻村・高井戸村の4村が誕生しました。この時、初めて「杉並」の名称が用いられて、今日の区名の基になりました。

この「杉並」の地名は江戸初期に



## 「杉並」の由来

成宗・田端両村の領主であった岡部氏が領地の境界のしるしとして青梅街道に沿って植えたと言われる杉並木に由来するものです。

大正13年(1924年)杉並村が町になり、大正15年(1926年)残り3村も同時に町へ変わりました。

昭和7年(1932年)10月、東京の市域拡張が実現するに伴い、新設の20区の一つとして杉並4町は杉並区を構成することになりました。

(写真:昭和11年の五日市街道)

## かつての生活道具

### ◇家族を結ぶ丸い円「ちゃぶ台」

ちゃぶ台というと、「サザエさん」や、「寺内貫太郎一家」を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。昭和50年代にダイニングテーブルにとってかわられるまで、ちゃぶ台は、暮らしの中心的存在でした。

### ◇針仕事とともにあった「裁縫箱」

昔は、裁縫といえば手縫いでした。裁縫箱は、和裁用具をいれる大切な箱であり、当時の主婦にとって、それは必需品でもありました。



### ◇炭のぬくもり、「火鉢」

すきま風の多かった昔の日本家屋であっても、火鉢にあたっていれば、それほど寒いとは思わなかったそうです。炭を眺め、その匂いのかいでいると、実際の気温以上に温かく感じたのかもしれません。

(写真:西田小学校郷土資料展示室)



昭和11年(1936年)2月26日。東京が大雪の早朝に、陸軍の一部青年将校たちが政府転覆を企てて、首相はじめ陸相や蔵相など政府要人の官邸や私邸を襲撃し、区内にあった渡邊錠太郎教育総監私邸も襲撃されました。

## 2・26は杉並でも

渡邊錠太郎邸は、平成20年2月まで上荻二丁目に当時の建物が残っていましたが、その後に建物は取り壊されました。

区は、同邸宅が昭和初期の建築物であることや、「2・26事件」という歴史的事件の現場であることから、青年将校らが突入を試みた入り口の扉、現場にあった襖や障子、欄間や照明器具など、およそ31点を譲り受け、郷土博物館に保管しています。

(写真:平成18年の渡邊邸)

## ＊成人祝賀のつどい＊

**【月日】** 1月11日(祝)  
**【場所】** 杉並公会堂(上荻1-23-15)  
**【内容】** 式典、タケカワユキヒデによるミニコンサート  
**【対象】** 平成元年4月2日～2年4月1日生まれで区内在住の方

お住まいの地域(町名)ごとに次の時間にお越しください。

- ①午前10時30分～11時30分(10時開場)  
阿佐谷北、阿佐谷南、梅里、高円寺北、高円寺南、成田西、成田東、堀ノ内、松ノ木、和田
- ②午後1時～2時(0時30分開場)  
和泉、永福、大宮、上高井戸、久我山、下高井戸、高井戸西、高井戸東、浜田山、方南、宮前
- ③午後3時30分～4時30分(3時開場)  
天沼、井草、今川、荻窪、上井草、上荻、清水、下井草、松庵、善福寺、西荻北、西荻南、本天沼、南荻窪、桃井

該当者には、21年12月中旬に案内状をお送りしました。

児童青少年課青少年係 ☎3393-4760

### 【準備するもの】

- ・との粉・新漆・漆の薄め液・金粉・面相筆
  - ・紙ヤスリ・ガラス板・綿棒
- ※ホームセンターや釣り具店などで手に入ります。漆用の洗い液があると後片付けに便利です。



①「ガラス板」の上で、「との粉」と「新漆」を1対1の割合で混ぜ合わせたパテを作り、欠けてしまったところにかぶせて、1週間ほど乾燥させます。

④十分乾いたところで、綿棒に金粉をまぶし、なでるように転がします。



完成♪

ガラス板の上で、新漆と薄め液を混ぜ合わせます。



②紙ヤスリ(目の細かいもの)で円を描くようにやさしく磨いていきます。陶器に比べて、磁器はパテが付きにくいのでより丁寧に!



③面相筆で、薄めた新漆をぬり、15分程度乾かします。漆はかぶれの原因などになりますので、取り扱いにはご注意ください。

## 伝統文化を体験

# 「金継ぎ」で陶器を修復

「金継ぎ」は、陶磁器の割れや欠けを漆などを使って修復し金粉で装飾します。金粉で割れ目を継ぐことで陶磁器の表情が変わり、新しい価値を持たせる日本独特の技法です。

### —今回ご協力いただいたお店—

#### ◇タマタマヤ◇



「どういった想いで、どの様にしてできたのか」顔の見える物は愛着がわくと思います。自分で作ったもの・直したのなら、きっとなおさらですよ。(店主)



西荻地域

(発行日) 毎月1日、11日、21日

